

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(MENAランキングシリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/MENAranking.html>)

マイライブラリー:0265

(注)本稿は 2013 年 5 月 24 日から 30 日までの 4 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2013.5.30
前田 高行

最も清潔な国はカタール: MENA の腐敗認識指数(2012年版)

(MENA なんでもランキング・シリーズ その14)

目次	頁
1. 「Corruption Perception Index (腐敗認識指数)」について	2
2. MENA 諸国のCPI指数と順位	2
3. 2008－2012年の世界順位の変化	3
4. MENA5カ国と日本、中国の CPI 指数の変化(2008～2012年)	4

中東北アフリカ諸国は英語の Middle East & North Africa の頭文字をとって MENA と呼ばれています。MENA 各国をいろいろなデータで比較しようと言うのがこの「MENA なんでもランキング・シリーズ」です。「MENA」は日頃なじみの薄い言葉ですが、国ごとの比較を通してその実態を理解していただければ幸いです。なお MENA の対象国は文献によって多少異なりますが、本シリーズでは下記の 19 の国と 1 機関(パレスチナ)を取り扱います。(アルファベット順)

アルジェリア、バハレーン、エジプト、イラン、イラク、イスラエル、ヨルダン、クウェイト、レバノン、リビア、モロッコ、オマーン、パレスチナ自治政府、カタール、サウジアラビア、シリア、チュニジア、トルコ、UAE(アラブ首長国連邦)、イエメン、

これら19カ国・1機関をおおまかに分類すると、宗教的にはイスラエル(ユダヤ教)を除き、他は全てイスラム教国家であり OIC(イスラム諸国会議機構)加盟国です。なおその中でイラン、イラクはシーア派が政権政党ですが、その他の多くはスンニ派の政権国家です。また民族的にはイスラエル(ユダヤ人)、イラン(ペルシャ人)、トルコ(トルコ人)以外の国々はアラブ人の国家であり、それらの国々はアラブ連盟(Arab League)に加盟しています。つまり MENA はイスラム教スンニ派でアラブ民族の国家が多数を占める国家群と言えます。

第14回のランキングは、汚職追放を目指す世界の NPO 法人 Transparency International(略称:TI、本部ベルリン)が毎年発表している「Corruption Perception Index(腐敗認識指数)」について MENA

諸国をとりあげて比較しました。

* ホームページ

TI 本部: <http://www.transparency.org/>

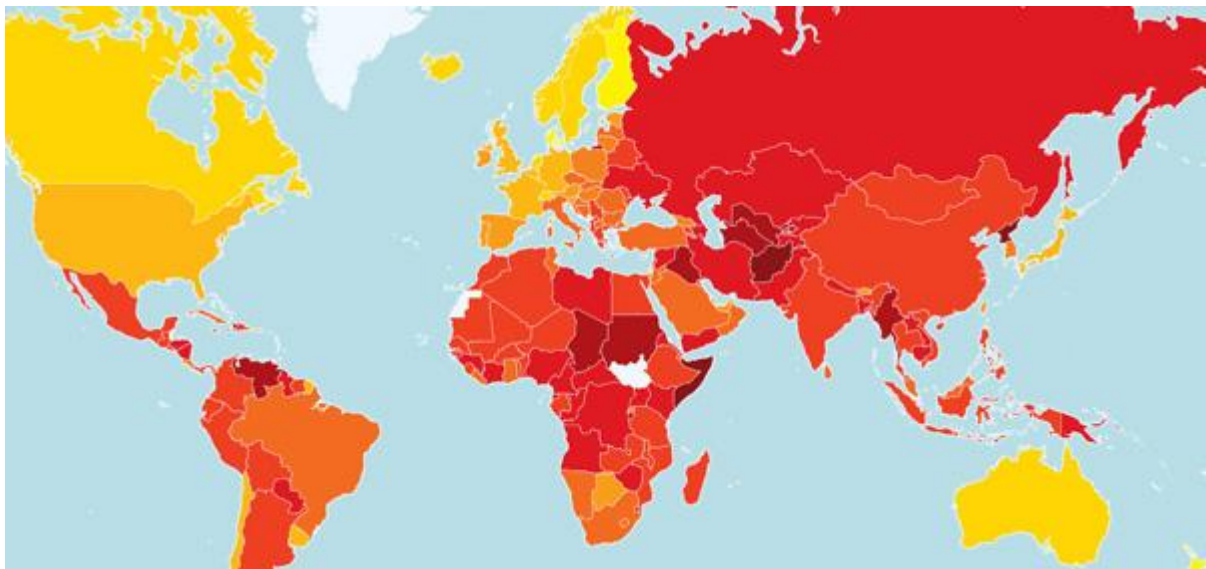
日本支部: <http://www.ti-j.org/>

1. 「Corruption Perception Index (腐敗認識指数)」について

Corruption Perception Index(CPI, 腐敗認識指数)は、公務員と政治家がどの程度腐敗しているか、その度合いを国際比較し、国別にランキングしたものである。ベルリンに本部のある NPO 法人 Transparency International(TI)が手がけており、日本にはその支部「NPO 法人トランスパレンシー・ジャパン」がある。

CPI は1995年に第一回の指数を発表、今年で18回目である。調査当初は対象国が41カ国、調査内容も7種類と小規模であったため、各国からは調査結果に対する不満が出たが、回を重ねるに従い内容の信頼性も高まっており、今年の調査対象国174カ国に達している。

評価は各国の実業家或いは分析専門家など実務で腐敗の現場に直面している人々の経験や認識に基づくアンケートを統計処理したものであり、CPIは0から100までのスコアで国を採点している。0点は最も腐敗していると考えられる国を、100点は最も透明性が高い国であることを示している。



(腐敗度別世界地図: Transparency International ホームページより)

2. MENA 諸国のCPI指数と順位

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/14-T01.pdf 参照)

2012年度のMENA腐敗認識指数はパレスチナ自治政府を除く19カ国が評価対象となっている。この中で最も腐敗度が低いと評価されたのはカタールと UAE(CPI指数68)である。両国の世界順位は27位で日本(17位)、米国(19位)よりも低く、オーストリア、スペインとほぼ同等である。カタール

ル、UAE に次ぐ第3位はイスラエル(CPI指数60)で世界順位39位である。以上3カ国が世界50位以内である。このほか世界100位以内にはバハレーン(CPI指数51、世界順位53位)、トルコ(同49、54位)、ヨルダン(同48、58位)、オマーン(同47、61位)、クウェイト・サウジアラビア(同44、66位)、チュニジア(同41、75位)、モロッコ(同37、88位)が入っている。

一方、MENA諸国の中で腐敗度が高いのはイラク(CPI指数18、世界順位167位)であり、世界174カ国中で下から8番目である。因みに世界最下位はアフガニスタン、北朝鮮及びソマリアでCPI指数は一桁の8である。この他リビア(同21、160位)、イエメン(同23、156位)などが世界の最下位グループと評価されている。MENA地域の大国であるエジプト及びイランは世界118位と133位にとどまっている。

MENA19カ国の平均CPIは40、平均順位は91位であり、MENAは世界174カ国の中では平均を下回っている。100位以下の国が19カ国中8カ国あるため平均的な順位が低く抑えられる結果となっている。MENAは各国の腐敗度の格差が大きい地域と言える。

CPIレポートは「貧困と腐敗の間には強い相関関係がある」と指摘しており、上位にカタール、UAEの湾岸産油国或いは経済力の強いイスラエル、トルコなどが並んでいることはレポートの指摘を裏付けている。しかしながらMENA最下位のリビア、イラク、シリア及びイエメンを比較すると貧困と腐敗が必ずしも相関関係にあるとも言えない。なぜならリビア及びイラクは産油国として豊かな石油収入があり国家としてのGDPはシリア、イエメンより大きく豊かである¹。それにも関わらずシリア、イエメンの方が腐敗度が低い。リビア及びイラクでは国家の富の分配が不平等であり、そこに腐敗が介在していることをうかがわせる。

ちなみに世界でCPI指数が最も高い国(即ち腐敗度が最も低いとされた国)はデンマーク、フィンランド及びニュージーランドでそのCPI指数は90である。日本はCPI指数74、世界17位とされており、これはMENAトップのカタール(世界27位)よりも上である。また米国は日本をわずかに下回りCPI指数73、世界順位19位である。中国はCPI指数39、世界順位80位で世界平均をやや下回り、MENAではチュニジア或いはモロッコと同レベルである。

3. 2008－2012年の世界順位の変化

(表http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/14-T02.pdf 参照)

MENA各国の2008－2012年の域内での順位及び世界順位の変動を見ると、カタールは過去5年間を通じて常にMENAトップであった。そして同国の世界順位は2008年の28位から2010年には19位まで上昇している。しかしその後2年間は22位(2011年)→27位(2012年)に後退、5年前に逆戻りしている。今回カタールと並びMENAトップであったUAEは、MENA域内の順位は2008年はカタール、イスラエルに次ぐ3位であり、その後イスラエルを抜き去り今回はカタールと共にMENAトップとなった。同国の世界順位は2008年の35位から毎年着実にアップしており、2012年の腐敗認識指数は68で世界27位である。

イスラエルの世界順位は33位(2008年)→32位(2009年)→30位(2010年)→36位(2011年)→39位(2012年)と推移しておりここ3年間は凋落傾向にある。サウジアラビアの過去5年間の世界順位は80位→63位→50位→57位→66位であり2010年には50位まで上昇したがその後順位が落ち60位台後半にとどまっている。

2011年の「アラブの春」と呼ばれる変革に見舞われた国について2011年をはさむ前後3年間の世界ランクの変動を見ると、バハレーンは48位(2010年)→46位(2011年)→53位(2012年)であり、チュニジアは59位(2010年)→73位(2011年)→75位(2012年)、イエメン146位(2010年)→164位(2011年)→156位(2012年)、リビアは146位(2010年)→168位(2011年)→160位(2012年)であった。チュニジアは「アラブの春」の前後を通じて世界ランクは毎年下がっており腐敗度が高まっていることを示している。イエメン及びリビアは腐敗度がもともと高く世界ランクは低かったが、2011年は順位を下げ2012年には多少回復している。但し世界の評価対象国の数が2011年は183カ国であったのに対し、2012年は9カ国減り174カ国であることを考慮すると実質的な世界ランクは変化がなかったと見るべきであろう。

MENA 全体の平均世界順位は85位/180カ国(2008年)→88位/180カ国(2009年)→84位/178カ国(2010年)→88位/183カ国(2011年)→91位/174カ国(2012年)であった。2008年から2011年までは80位台後半を前後していたが、2012年には90位台に落ちている。さらに全調査対象国の数を考慮すると、2011年までの4年間はわずかながらも世界の上位2分の1のグループに位置していたものが、2012年には下位グループに脱落していることがわかる。MENA 地域の腐敗度は悪化していると言えよう。

4. MENA5カ国と日本、中国の CPI 指数の変化(2008~2012年)

(図http://members3.jcom.home.ne.jp/areha_kazuya/14-G01.pdf 参照)

カタール、トルコ、サウジアラビア、エジプト、リビアの5カ国及び MENA19カ国平均に日本・中国を加えた2008年から2012年までの CPI 指数の変化を比較すると、カタールは2008年の CPI 指数65が2010年には77となり日本の78に肉薄した。しかしその後の2年間は2011年72、2012年68と連続して低下し5年前の水準に戻っている。因みに日本の推移は73(08年)→77(09年)→78(10年)→80(11年)→74(12年)であった。

トルコの場合は46(08年)→44(09年)→44(10年)→42(11年)→49(12年)であり2012年が過去5年間で最も良い。サウジアラビアは2008年の指数が35で MENA 平均(39)を下回っていたがその後2年間で急速に改善、2011、12年は指数44で MENA の平均値を超えている。MENA 平均値の推移は39(08年)→39(09年)→40(10年)→39(11年)→40(12年)であり5年間を通じて殆ど変っていない。この指数は中国をわずかに上回る水準であり、因みに中国の5年間の推移は36(08年)→36(09年)→35(10年)→36(11年)→39(12年)である。

エジプトとリビアは2008年の指数がそれぞれ28、26であり殆ど差はなかったが、その後エジプトが28(09年)→31(10年)→29(11年)→32(12年)とわずかながら改善しているのに対して、リ

ピアは25(09年)→22(10年)→20(11年)→21(12年)と長期低落傾向である。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

ⁱ MENA ランキングシリーズ3 「GDP の比較(2013年4月版)」参照。
<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0264MenaRank3.pdf>